

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立長崎東中学校
生徒数		116名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は92%であった。概ね基礎的な事項は身につけているが、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」力や、「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」力を問う問題に課題が残った。今後は、授業の中で文脈に応じた語句の意味をとらえさせたり、目的に応じた文章表現・構成を考えさせて書かせたりする場面を増やしていく。
国語B	概況 改善策	平均正答率は84%であった。「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」・「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」という「読む能力」と「書く能力」を総合的に問う問題に課題が残った。今後は、授業の中で、目的に応じて文章を読み、内容を整理・精査したうえで、相手に的確に伝わるように「書く」場面を多く設定していく。
数学A	概況 改善策	平均正答率は89%であった。基礎的事項は身につけており、答えを求められた事項については、多くの生徒が正しく求めることができている。一方で、数量を不等式で表す問題や相対度数の問題など、用語や記号の意味がきちんと理解できていない生徒もいるため、基礎的事項の定着についても意識的に取り組んでいく。
数学B	概況 改善策	平均正答率は83%であった。与えられた情報や資料から必要なことを選択し活用することはできているが、数学的な表現を用いて説明することを苦手としている生徒がいる。授業の中で数学的に説明させる機会を継続して設定し、言語活動に積極的に取り組ませていく。
理科	概況 改善策	平均正答率は87%であった。全国や県の正答率を大きく上回っている。概ねどの分野も基本的事項は定着している。観点別の正答率も良好である。問題形式別の正答率では、記述式が選択式、短答式に比べてやや正答率が低い。濃度の計算、地学的領域、特に天気図を読む問題を苦手としている。授業では、自分の考えを文章にまとめて答える活動に取り組んでいく。
質問紙調査の状況		平日の平均学習時間は、1時間30分であり、全体の2割の生徒が平日の家庭学習時間が1時間未満である。家庭学習時間の定着が課題である。部活動の参加率が全国や県を大きく上回っている。一方でゲームをしたりインターネットをしたりして時間を費やす生徒も多い。家庭と学校の連携をとり、改善に努めていく。

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

学 校 名		長崎県立佐世保北中学校
生 徒 数		116名
各 教 科 の 状 況		
国語A	概 況 改善策	平均正答率は91%であった。基本的な知識は身につけているが、慣用句など、特有の言い回しがわからない生徒もいる。語彙を増やしていくことはもちろん、使い慣れるために、短作文を繰り返し作るような場面を設定していく必要がある。
国語B	概 況 改善策	平均正答率は82%であった。自分のもっている知識を活用することは概ねできているが、問いの条件をきちんと把握することができず、解答が不十分な生徒がみられた。何を問われているのか、どのように答えればよいか、論理的に考える力を身につけさせる必要がある。
数学A	概 況 改善策	平均正答率は90%であった。数と式の分野における文字式の計算や図形分野の平面図形・空間図形に関する問題はよく理解できている。しかし、関数分野での一次関数の意味の理解や資料の活用分野の資料の読み取りを苦手とする生徒が多かった。今後は、問題文やグラフの意味について考える力をつけさせる必要がある。
数学B	概 況 改善策	平均正答率は80%であった。問題形式が選択式や短答式では正答率が高いが、記述式では低い傾向がみられる。今後は、様々な事象の問題解決を、数学的な表現を用いて的確に説明する力をつける必要がある。授業等で、自分の解法をしっかりと記述する力を育成していく。
理 科	概 況 改善策	平均正答率は87%であった。「知識」や第1分野の問題では、無回答が少なく正答率が高い。しかし、「活用」で第2分野と記述式の問題では、無回答があり正答率も低い傾向がみられる。今後は、現象を理解するだけでなく、既存の知識と関連させて解釈する力を育成する必要がある。
質問紙調査の 状 況		平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒が45%（県平均31%）で、1時間未満の生徒が14%（県平均31%）であった。「数学の勉強は好きですか」に「当てはまる」と回答した生徒が47%（県平均25%）と、学習に意欲的に取り組んでいる生徒の割合が高いことがわかる。

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生徒数		113名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率は92%であった。話の論理的な構成や展開などに注意して聞くことや、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することなどがよくできている。今後は、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く能力を伸長するために、年間を通じて、指定した条件の下で文を書く活動を計画的に設定する。
国語B	概況 改善策	平均正答率は83%であった。質問の意図を捉えることや、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することなどがよくできている。今回課題として挙げられる「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くこと」の改善を図るために、新聞記事から事実や主張を読み取り、それに対する自分の考えを書くなどの活動を一層工夫する。
数学A	概況 改善策	平均正答率は89%であった。全ての領域において、数や文字式の計算、図形の性質、資料の活用など、基礎的・基本的な知識及び技能が身につけている。しかし、一次関数の理解が十分でないため、関数の関係にある日常生活や社会の事象を多方面から取り上げ、実感を伴う理解ができる授業づくりに努める。
数学B	概況 改善策	平均正答率は79%であった。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することやグラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することなどがよくできている。しかし、数学的な表現を用いて説明することなどについては、理由や方法を書いて説明する機会を増やすなどして、改善していく。
理科	概況 改善策	平均正答率は85%であり、領域ごとの正答率は、物理94%、生物88%、化学、地学約80%であった。観察・実験の技能や知識・理解面で定着が確実でないため、日々の授業において、目的意識を持った観察・実験を充実させて行い、科学的に調べる能力などを伸長していく。また、実生活や他教科とのつながりを意識した指導を行う。
質問紙調査の状況		自己肯定感が高く、規則を守る意識や、社会への貢献、生活・学習習慣、学習意欲など、全体的に良好である。平日、1時間以上学習する生徒が87%いる一方で、放課後、家でメディアを視聴して過ごす生徒が58%（複数回答）いることから、家庭と協力しながら、メディア使用の適正化、時間管理などについて指導していく。